

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 83	56	ヘルパンギーナ	↘ 34	38
咽頭結膜熱	↗ 16	8	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 111	128
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 38	52	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 357	326	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 12	16
水痘	↗ 20	9	細菌性髄膜炎	→ 1	1
手足口病	↘ 31	34	無菌性髄膜炎	→ 3	3
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 2	10	マイコプラズマ肺炎	↘ 8	14
突発性発疹	↗ 42	34	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- RSウイルス感染症

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
流行性耳下腺炎：八代、山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	27	4	11	70	7	6	1	11	0	3	22	0	12	1	3	5	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	31	0	2	1	1	0	2	9	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	29	5	7	80	3	2	0	9	0	2	28	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	1	0	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	2	1	0	30	0	4	0	3	0	4	21	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	4	0	0	0	0	2	0	0
8 人吉保健所	0	0	1	0	10	4	0	0	6	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0
9 有明保健所	0	12	1	9	80	3	2	0	3	0	1	11	0	0	0	0	1	0	0
10 宇城保健所	0	12	1	8	24	1	6	0	4	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	3	1	13	2	9	0	4	0	15	8	0	0	0	0	0	0	0
計	0	83	16	38	357	20	31	2	42	0	34	111	0	12	1	3	8	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	83	8	16	37	14	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	16	0	0	3	7	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0	0	2	5	6	5	4	3	7	2	0	4	0	0							
感染性胃腸炎	357	3	16	73	52	27	41	28	19	14	10	11	38	10	15							
水痘	20	0	1	3	4	0	2	4	2	3	0	1	0	0	0							
手足口病	31	0	7	12	5	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0							
伝染性紅斑	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0							
突発性発疹	42	0	23	16	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	34	0	4	10	7	6	3	1	0	1	1	0	0	1	0							
流行性耳下腺炎	111	0	1	7	8	17	13	22	15	11	5	1	8	2	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	12	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4	1	0	2	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					
無菌性髄膜炎	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	8	0	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

引き続き、流行性耳下腺炎に注意しましょう

今週の流行性耳下腺炎の報告数は111件、定点あたりの報告数は微減ですが、依然として今年は報告数が多い状態が続いています。警報レベルが続いていた八代地域では、今週の報告数は先週と比べて半減しましたが、10週連続で警報レベルです。

RSウイルス感染症に増加の兆しが見られます

RSウイルス感染症が3週連続で増加しています。例年、秋から冬にかけて報告数が増加する傾向にあります。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染するといわれています。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。症状は、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快するといわれています。飛沫・接触感染が主な感染経路で、予防策は、流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行う、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する等です。

